

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

知・徳・体の調和のとれた人間育成を柱とした教育活動を展開し、「入りたい」「入ってよかった」と言われる「元気で活気のある伝統校」をめざす。
また、学校から家庭・地域への情報発信や連携による開かれた学校運営を展開し、地域の教育・文化の中心的な役割を果たす学校をめざす。

1. 自らが抱いた「高い志」や「将来の夢」の実現に向け学力向上をめざすとともに幅広い教養を身につけた生徒を育成する。
2. キャリア教育をいっそう推進し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、これからの社会に貢献する多様な人材を育成する。
3. 地域や他の教育機関との連携を密にし、本校が社会に輩出してきた人的資源や地域の社会資源を活用した教育活動を展開する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、特色ある教育課程の実施。

- ア 情報専門コースの授業内容を充実させ、生徒のニーズや興味・関心にあった魅力あるコースに発展させる。
- イ 今年度入学生から導入する新教育課程の内容を精選し、生徒の進路実現につながる選択科目の開発と充実に取り組む。

(2) 学習意欲の向上と授業力向上の取組み

- ア 進路指導部と教務部の連携を密にし、放課後や休業中を活用した応用力育成講習や基礎力定着補習を実施し、学力の向上を図る。
- イ 授業力向上支援チームを組織し、授業公開や教員相互の授業見学、生徒の授業評価アンケートを活用し、全校的な授業力向上に取り組む。
また、習熟度別授業、少人数授業のあり方についても検討する。

*生徒の授業評価アンケートにおける授業満足度（平成 24 年度 62%）を平成 27 年度には 75%にする。

2 自主性および規律ある生徒の育成

(1) 自治会（生徒会）活動や部活動の活性化を通して自主性を育てる。

- ア 学校行事の活性化に向け、生徒の自主的な取組みを進める。
- イ 体験入部期間を設けるなど部活動を身近なものとして捉える工夫をする。また、地元中学校との交流を進める。

*現在約 40%の部活動加入率を平成 27 年度には 55%にする。

(2) 規範意識醸成のため、全教職員による生徒指導体制の確立

- ア 遅刻撲滅に向けた取組み体制を全教職員の共通理解のもと再構築するとともに、家庭との連携協力体制を確立する。
- イ 制服指導や交通マナーなどの向上に向けた講演会や講習会を計画する。

*生徒の年間遅刻総数（平成 24 年度 6139）を毎年 6 ポイントずつ減少させ、平成 27 年度には総数 5000 以下にする。

(3) 教育相談体制の充実

- ア 生徒情報の共有化を進め、全教職員がカウンセリングマインドを持って生徒の指導にあたる体制を構築する。
- イ 支援教育コーディネーターを指名し、個別支援に向けた取組みを進める。

*生徒向け学校教育自己診断における「先生は相談にのってくれる」の肯定的な答えを平成 27 年度には 70%にする。

3 「志」や「夢」の実現に向けた指導計画の確立

(1) 「総合的な学習の時間」と LHR を活用した総合教育の実施

- ア 入学から卒業までの 3 年間を通じた志学、キャリア教育と人権教育を連動させた生徒育成プログラムを構築する。

(2) 個別の進路希望に応じた指導体制の取組み

- ア 個人指導カードの作成、活用とパート別指導の実施。また、個々の進路希望に応じた情報提供を適切かつ迅速におこなう。
- イ 伝統校としての評価を取り戻すために進学実績を上げる。

*難関私立大学への合格者（平成 24 年度 4 名）を平成 27 年度に 10 名以上にする。

4 地域への発信および広報活動の充実

- ア 中学校、保護者、教育関係者を中心に積極的な情報発信および広報活動を行うことで学校理解を図り、地域に根ざした学校づくりを行う。
- イ 生徒参加による学校説明会や中学校訪問等を企画実施し、本校の教育活動のいっそうの理解を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 25 年 12 月実施 (抜粋)]	学校協議会からの意見
<p>【教職員の学校教育自己診断の結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>学校の特色づくりを推進</u>：「学校の教育活動には、他の学校にない特色がある」58% ⇒ 現状では「特色ある学校」という意識が低い ・<u>部活動の推進に向けての工夫・改善</u>：「学校として部活動の活性化について工夫している」89% ⇒ 部活動加入率 45%に止まっている ・<u>人権教育の推進</u>：「人権の感性を高める指導を行っている」45% <p>⇒ 人権学習の充実の必要性を感じている</p> <p>【教職員と生徒の学校教育自己診断の結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>教育相談相談体制の工夫</u>：教職員「教育相談体制が整備され、学級担任以外の教職員と相談することができる」77%、生徒「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」35% ⇒ 教職員と生徒の意識に大きな差がある <p>【生徒の学校教育自己診断の結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>進路実現を目標とした家庭学習の定着を図る</u> 家庭学習時間が 1 時間以下 66% ⇒ 進路の目標を持ち得ていないことから学習意欲が高くない割合が高い <p>【保護者の学校教育自己診断の結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>保護者と学校の信頼関係構築の推進</u>：「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」75% 「保護者の相談に適切に応じてくれる」77% 「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでくれる」78% 「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」60% <p>⇒ 保護者の学校理解に満足することなく、さらなる信頼関係の強化に努める。</p>	<p>【第 1 回 (6/12)】 (提言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者の減少や挨拶運動など、学校に動きが出てきているので今後さらに希望が持てる。継続してほしい。 ・体育祭で保育園の園児を招き、競技を行うなどして地域と交流、連携を図っていることは良いことである。継続してほしい。 ・学校の良さをもっとアピールしてほしい。 ・進路について卒業生から本校生徒へメッセージをもらい、生徒のモチベーションの高揚を図ってほしい。 ・生徒が相談しやすい学校づくりをしてほしい。 <p>【第 2 回 (11/8)】 (提言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた様々な取組みが始まっており、今後大いに期待が持てる。 ・自治会による「あいさつ運動」が学校全体に広がり、さらに元気な学校になることに期待している。継続してほしい。 ・個々の進路目標が違うことから、1 年からの個に応じた一段上の進路目標を持つ指導をお願いしたい。 <p>【第 3 回 (2/5)】 (提言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の自己評価、報告から各項目で確実に成果を上げている。泉大津高校はもっと可能性のある学校だと思うので現状に満足することなく、さらに高いところに目標を定め、その実現のため先生方一丸となって取り組んでほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 特色ある教育課程の実施 ア 情報専門コースの授業内容の充実	(1) ア・情報専門コースにおいてキャリア教育の観点を入れた授業内容を充実させる。	(1) ア・情報専門コースの生徒の授業満足度 60%をめざす。	(1) ア 情報専門コース →「ビジネス情報コース」に改名し、進路実現に活用できる資格を取得可能な内容に充実。(◎) 授業満足度は、授業アンケートの肯定率が82%で目標達成。(○) 次年度は資格取得者の増加に注力する。
	イ 平成 25 年度入学生用教育課程の実施	イ・2年からの文理選択に向け、カリキュラムの特色を明確にした科目選択のモデルプランを作成する。 ・就職希望者が学習しやすい教養科目を新設するなど3年次の進路実現を見据えた新たな選択科目を検討する。	イ・文理別、進路別のモデルプランを6プラン以上作成する。 ・学校教育自己診断の「教育課程は、進路や興味合った科目が選べる」の答えが50%以上をめざす。	イ ・モデルプランは作成。 次年度は、科目選択が生徒のニーズにあっているかを検証し、必要に応じて改訂を検討。(○) ・学校教育自己診断「教育課程は、進路や興味に合った科目が選べる」 1年60%、2年55%、3年57%と目標達成。(○) 今後、授業満足度と併せて検証し、必要に応じて改訂を検討。
	(2) 学習意欲の向上と授業力向上の取り組み ア 確かな学力を身につけて卒業できる生徒の育成	(2) ア・学習意欲のある生徒には、応用力育成講習を各教科で調整し放課後や休業中に行う。 ・英語・数学では1年から2クラス3展開の習熟度別少人数展開授業を行い、基礎・基本の学力の定着をめざす。 ・年2回教育産業学力診断を実施し、進路指導部が中心となって、課題を探索し、次なる取組みにつなげる。	(2) ア・講習、補習の必要性を把握し、全学年で実施数を増やす。 ・学力診断の結果より、見える課題に応じた対応策の提示と実践。	(2) ア・講習実施状況 (1年) 講座数を増やし、継続した講習を実施。受講者数増加。 (2年) 進路選択に応じた講習や個人講習を実施。 (3年) 大学別講習や個人講習など工夫を凝らし粘り強く実施。(○) 今後、講習実施を進路実現に向けた学校の取組みとして定着を図る。 ・学力診断結果を活用し、1、2年生及び教員間でデータ分析会を実施。(○) 次年度継続実施し、結果を活用することで、生徒および教員の学力向上へのモチベーションの高揚を図る。
イ 授業力向上への取り組み	イ・全校的な授業力向上に取り組むため、首席を中心とした授業力向上支援チームを組織し、授業アンケートや学校教育自己診断などを参考に、教員全体の授業力向上を推進する。 ・年2回の授業公開週間を設定し、教員相互の授業見学(1週間に最低2教科見学)や研究授業を実施し、意見交換をする。	イ・授業力向上支援チームの結成と取組みの実施により授業満足度を65%まで上げる。 ・全教員が年4回以上他の教員の授業を見る。	イ・授業力支援チーム(首席、公募)を編成。授業アンケート結果をもとに各教科で課題とその対応を検討し、実践。(○) <授業アンケートによる満足度> (目標) H27 75% ⇒ H25 73% 次年度も継続して取組み、さらなる満足度上昇をめざす。 ・パッケージ研修を教員全体で取組み、「泉大津高のめざす授業像」を作ることができた。(○) 次年度も「めざす授業像」をテーマに教員全体で取組むことができる企画を実施する。 ・教員相互見学・・・全教員が3回以上の授業見学を実施(○) 授業のさらなる充実をめざし、来年度も同様の取組みを継続。	

2 自主性および規律ある生徒の育成	<p>(1) 自治会活動、部活動の活性化 ア 自治会活動の活性化と自主性育成</p> <p>イ 部活動の活性化と中高連携</p> <p>(2) 範意識醸成のための生徒指導体制 ア 遅刻撲滅に向けた取り組み イ マナー指導の徹底</p> <p>(3) 教育相談体制の充実 ア 生徒情報の共有化とカウンセリングマインドの確立</p>	<p>(1) ア・体育祭、文化祭の運営を自治会生徒が主体的にできるよう教員がサポートし、自主性を育む。</p> <p>イ・部活動加入率を上げるため、入部紹介プリント作成や体験入部期間を定期的実施する。</p> <p>・運動部中心に、地元中学校との合同練習や試合を企画し、中学校との交流を活発化する。</p> <p>(2) ア・全教職員が同じ基準で生徒指導にあたる体制を構築するとともに、「生徒指導の手引」を運用し、年間懲戒者数を減少させる。 ・登校指導週間を増やし、朝のあいさつ運動を展開するとともに、遅刻数減少につなげる。</p> <p>イ・自転車通学者のマナー指導を警察と連携して行う。</p> <p>(3) ア・全教員が生徒情報を共有し、いつでもだれでもが的確な対応ができるようにする。</p> <p>・教員の人権研修や教育相談研修を実施しカウンセリングマインドの醸成に努める。 ・教育相談委員会が中心となってスクールカウンセラーを活用し、教員のスキルの向上を図る。</p>	<p>(1) ア・生徒自治会による各委員会を最低年5回開催する。</p> <p>イ・体験入部期間を1・2学期に各2度ずつ実施し、1年生の部活動加入率を50%に上げる。</p> <p>・地元中学校との連携について、種目、回数を増やす。</p> <p>(2) ア・年間懲戒件数の半減させる。 ・遅刻総数を前年度比6%以上減少をめざす。</p> <p>イ・警察と連携し、学期に1回ずつ通学路指導週間を実施する。</p> <p>(3) ・生徒向け学校教育自己診断「気軽に相談に乗ってくれる先生がいる。」の肯定的な答え60%をめざす。</p>	<p>(1) ア・生徒による各委員会を10回以上開催。学校教育自己診断「学校行事肯定率」68% (◎) 今後は、自治会の主体的活動である「あいさつ運動」を継続し、学校全体で「あいさつのできる学校」をめざしチャレンジすることで自治会の自主性を育みたい。</p> <p>イ・1年生部活動加入率 45% クラブ実績(2クラブで全国大会出場など)は、昨年よりも上回っているが、部活動加入率が目標に達していないことが課題。(△) ・昨年度よりも中高交流回数が増加。昨年4回→今年7回 (○) 今後も連携に取組み、交流機会を増やしていきたい。</p> <p>(2) ア・懲戒件数 H24 20件→H25 21件 件数の半減には至らず、次年度再度取組む。(△) ・遅刻総数 H24 4924 ⇒H25 4082・・・17%減(◎) 目標以上の成果を上げている。今後も指導体制を堅持し、生徒に遅刻防止の啓発指導を行い、さらなる減少をめざす。</p> <p>イ・警察と連携するとともに定期的に通学指導を行っていることで外部からの苦情が減少。(○) 今後も通学マナーの徹底と事故防止の観点から継続的に指導を実施。</p> <p>(3) ・学校教育自己診断「担任以外で気軽に相談に乗ってくれる先生がいる。」の肯定率がH25 36%で未だ低い。(△) ・9月教員向け人権研修を実施。(○) ・SCを活用し、教育相談研修やケース会議を開催。(○) 様々な研修を実施し、教員の意識が変わりつつある。また、資質の向上も図られてきていることから次年度も継続して研鑽を積んでいきたい。</p>
----------------------	--	--	--	---

<p>3 「志」や「夢」の実現に向けた指導計画の確立</p>	<p>(1) 総合教育の実施 ア 3年間の生徒育成プログラム</p> <p>(2) 個々の進路に応じた情報提供 ア 就職に関する指導 イ 進学に関する指導</p>	<p>(1) ア・「総合的な学習の時間」とLHR等を活用し、進路講演会や分野別進路体験、職業体験、大学見学など学年に応じたメニューを用意し実践していく。</p> <p>・1年生の自己発見から3年生の自己実現に向けた総合的なキャリア教育を行う。</p> <p>・人権教育に係る指導計画をさらに充実させ実践することで人権意識の向上を図る。</p> <p>(2) ア・個人進路指導カードを作成し、パート別指導を丁寧に行い、進路選択ミスを防ぎ、自己実現をめざす。</p> <p>・就職主坦を中心に就職希望者に指導や支援を行い、就職内定率の向上をめざす。</p> <p>イ・1年生から難関大学等の学校見学を実施し、夢を抱かせ、挑戦する姿勢を育成し、チャレンジして合格する生徒を育てる。</p> <p>・伝統校としての評価を取り戻すために、進学実績を上げることが目標に、ガイダンスや支援を行う。</p>	<p>(1) ア・1年生での大学見学会の実施</p> <p>・学校教育自己診断の「進路情報の提供」の肯定的な答えを60%に引き上げる。</p> <p>・3年間トータルなキャリア教育プランの作成。</p> <p>・生徒の学校教育自己診断における人権教育についての肯定的な答えを50%に引き上げる。</p> <p>(2) ア・就職内定率を前年度同様の100%を維持する。</p> <p>イ・難関大学の大学への受験者を増やし合格する生徒を出す。</p>	<p>ア・1,2年生で大学見学会を実施。1年生で職業別説明会や大学等の体験授業を実施。1年の大学見学会実施後のアンケートで肯定率は8割と高かったが、進路目標未定者が7割いることから今後も1年次から進路についての意識を高め、目標を持てるよう情報提供及び様々な取組みを行っていく必要がある。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断「学校は、進路についての情報を知らせてくれる。」肯定率 H25 75% (○)</p> <p>・現状プランは作成済みであるが、今年度の新企画も入れた最新トータルプランを現在作成中 (○)</p> <p>・人権教育について学校教育自己診断の肯定率 (H24 32%) 1年75% 2年42% 3年52% (○) 人権教育推進委員会で各学年の取組みを総括し、次年度の人権教育計画に生かす。</p> <p>(2) ア・学力診断などの個人データから個々の進路指導カードを作成。(○) 今後、より活用しやすいものに改良していく。</p> <p>・就職内定率 12月中に内定100%を達成。(◎) (一次合格率H24 48%⇒H25 65%) 次年度も内定率100%をめざす。</p> <p>イ・<難関大学受験者> 国公立・難関私立大学ともに受験者数が増加。(○)</p> <p><難関大学合格者> 近年になかった国公立大学合格や難関私立大学の合格者が増加。(◎) 次年度は、進路指導部が軸となり、今年度の実績を活かし生徒及び教員の進学モチベーションを上げ、3年間トータルなキャリア教育プランを実践する。 また、講習をはじめとするサポート体制を充実させ、学校ミッションのひとつである個々の生徒ニーズ(就職、専門学校、大学など)に応じた進路実現に向け、積極的に取り組んでいく。</p>
<p>4 地域への発信および広報活動の充実</p>	<p>中学校、保護者、教育関係者を中心に積極的な情報発信と広報活動の充実</p>	<p>・新・学校パンフレットの作成</p> <p>・全教員による中学校訪問を実施するとともに近隣学習塾等への広報活動も合わせて開始する。</p> <p>・生徒による広報活動を実施する。</p>	<p>・新学校パンフレットの作成</p> <p>・生徒による広報活動の実施</p> <p>・広報活動の充実について学校協議会からの肯定的評価</p>	<p>・新・学校パンフレット作成 (○)</p> <p>・中学校訪問は昨年度よりも訪問校を増やし実施できたが、塾訪問は少数に止まった。次年度は塾訪問も計画的に行う。(○)</p> <p>・学校説明会で生徒によるプレゼンテーションを実施できた。(○) 広報効果とともに生徒の能力育成にも大いに効果があることから次年度も取り組んでいきたい。</p> <p>・HPは更新できたが、リアルタイムでの更新ができなかった。(△) 次年度は円滑な更新ができるよう工夫する。</p> <p>・学校説明会(学校外)への教員参加の増加。 学校説明会 6回 のべ教員数 42名 (○)</p> <p>・情報関係の専門学校と連携し学校紹介PVを作成。学校説明会で放映し、中学生、保護者から好評を得た。</p> <p>・学校協議会からの肯定的意見 「様々な新しいことが始まり、広報活動が積極的に展開されてきている。」 「広報委員会の設置により学校全体で取組む姿勢が強まり、今後の広がりがさらに期待できる。」 (◎)</p>